

「橋本病（慢性甲状腺炎）」について

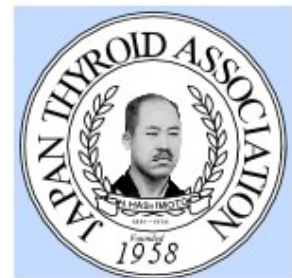
「橋本病」は、九州大学の外科医であった橋本 策（はかる）博士が1912年（大正元年）に、世界で初めてこの病気に関する論文をドイツの医学雑誌に「甲状腺リンパ節腫症的变化に関する研究報告」として発表。のちに国際的に評価され、博士の名前にちなんでつけられた病名です。

「橋本病」は「慢性甲状腺炎」ともいいますが、この名はこの病気の成り立ちに由来し、甲状腺に慢性の炎症が起きている病気という意味です。

「日本甲状腺学会」のシンボルマーク（ロゴ）（図）は橋本 策 博士の肖像で、彼の業績を記念してデザインされています。



日本甲状腺学会
Japan Thyroid Association



甲状腺の病気は、どれも女性がかかりやすいのですが、「橋本病」は甲状腺の病気のなかでもとくに女性に多く、男女比は 約1対20～30 近くにもなります。また年齢では20歳代後半以降、とくに30、40歳代が多く、幼児や学童は大変まれです。

甲状腺における慢性の炎症性疾患で、血液中に甲状腺自己抗体が証明され、「臓器特異的自己免疫疾患（＊）」の代表とされています。

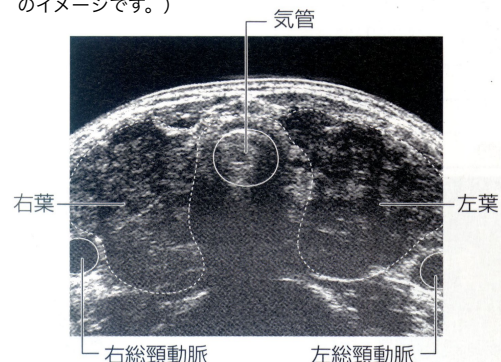
＊ 異物を認識し排除するための役割を持つ免疫系が、自分自身の正常な細胞や組織に対してまで過剰に反応し攻撃を加えてしまうことで症状を起こす病気の総称が「自己免疫疾患」です。

「自己免疫疾患」は、全身性自己免疫疾患と、特定の臓器だけが影響を受ける「臓器特異的疾患」の2種類に分けることができます。「関節リウマチ」や「全身性エリテマトーデス」に代表される膠原病は、「全身性自己免疫疾患」です。

		機能状態		
		中毒症 ↑	正常 →	機能低下症 ↓
原因	自己免疫	Basedow病	慢性甲状腺炎（橋本病）	
	炎症	無痛性甲状腺炎		
	腫瘍	亜急性甲状腺炎	急性化膿性甲状腺炎(222頁)	
	腫瘍	機能性腺腫 (Plummer病)	甲状腺癌 甲状腺腺腫 腺腫様甲状腺腫	

図（左）：

甲状腺疾患を機能状態による分類と病因による分類です。「慢性甲状腺炎（橋本病）」は甲状腺疾患の中でも患者数の最も多い病気です。（各疾患の面積は患者数のおおよそのイメージです。）



図（上）

「超音波検査」では、甲状腺の両葉の腫大が認められ、辺縁は不整。内部のエコーは不均一で低下。石灰化をとまうこともあります。

症状など

- ・ 中年女性（40～50歳代）に好発
- ・ 甲状腺の腫大

甲状腺腫の大きさは、触知が困難な大きさの小さいものから、見ただけではつきり分かるものまで様々です。その性状は「バセドウ病」の甲状腺腫と似ていますが、「橋本病」の方が比較的硬く、表面がゴツゴツしているものが多い傾向があります。

・甲状腺機能低下による症状

甲状腺機能は正常であることが多いのですが、40歳以後、次第に甲状腺機能が低下してくる症例が増え、最終的には約15%が機能低下となります。

明らかな甲状腺機能低下症がある人は橋本病の約10%ほどで、さらに20%ほどの患者さんでは、血液検査により初めて甲状腺ホルモンの不足があることがわかります。つまり、「橋本病」の人の約30%には、多かれ少なかれ機能低下があることになります。残りの70%は、甲状腺機能が正常です。

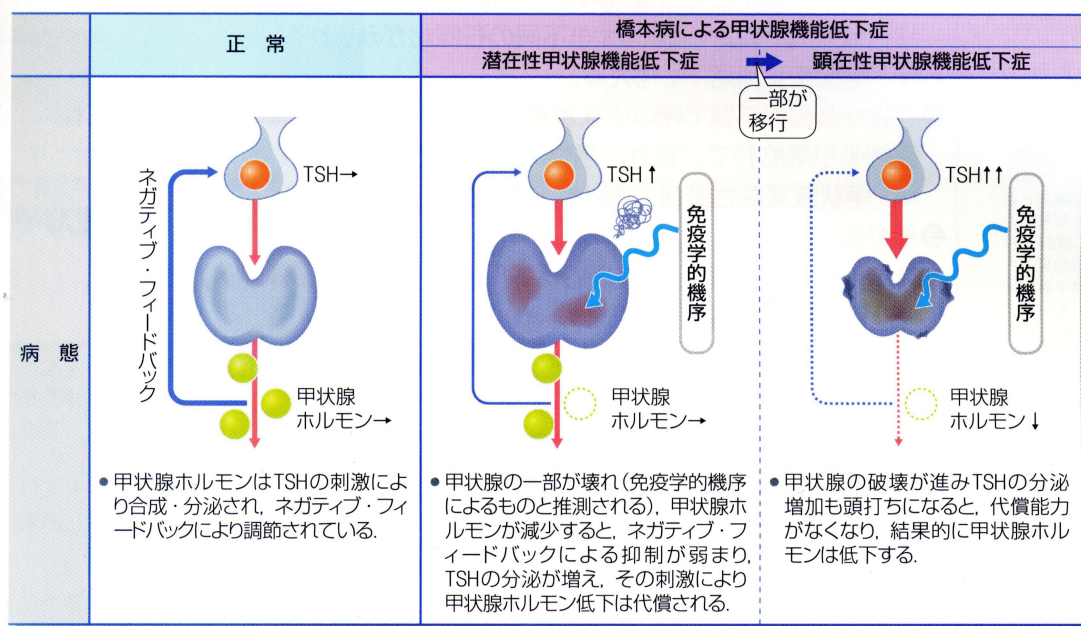


図 (上) :

甲状腺機能低下症のうち脳下垂体からの TSH (thyroid stimulating hormone、甲状腺刺激ホルモン) の上昇により甲状腺ホルモンの分泌が保たれている場合を<潜在性甲状腺機能低下症>、甲状腺ホルモン分泌が低下している場合は<顕在性甲状腺機能低下症>。

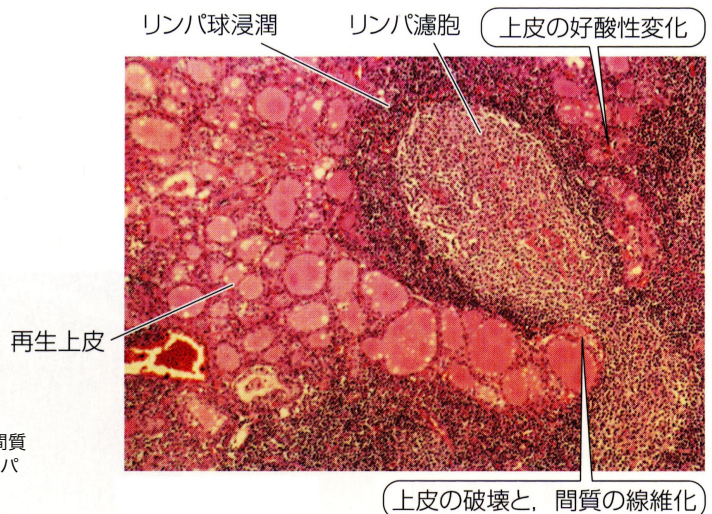
検査・診断

- ・<血液検査>で抗甲状腺抗体(*)が陽性:

- * 抗サイログロブリン (Tg) 抗体、甲状腺ペルオキシダーゼ (TPO: thyroid peroxidase) 抗体 (または抗マイクロゾーム抗体)

- ・<細胞診>でリンパ球浸潤などの所見(**)

** 図 右: 甲状腺の病理組織像
免疫学的機序により甲状腺の破壊が進み、間質にはリンパ球の浸潤と繊維増成が著明で、リンパ濾胞の形成も認められます。



治療

甲状腺機能が正常である場合には、「橋本病」だからといって治療を急ぐ必要はありません。しかし、甲状腺機能低下がある場合には治療が必要です。体にはっきりとした症状を感じなくても、甲状腺ホルモン不足が長期間続く新陳代謝の低下による影響がさまざまな臓器に出てきます。

甲状腺機能低下症の治療方法は、体で分泌できない分の甲状腺ホルモンを薬で補うことです。甲状腺ホルモン補充療法としてサイロキシシン (T4製剤。商品名は「チラーヂンS」。) が投与されます。

図は、日本甲状腺学会 ホームページ、「病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌」<MEDIC MEDIA> から引用しました。

この「診療所だより」や診療についてのご意見・ご要望などをお気軽にお寄せください。これからの参考にさせていただきます。

編集・発行: 勝山諄亮

勝山診療所

〒639-2216 奈良県御所市343番地の4(御国通り2丁目)
電話: 0745-65-2631